

十七文字の抒情詩

四十二



緑や綺麗な青空。本当に美しい季節、五月です。

花粉症の後遺症(?)で、今一つすっきりしない感じもありますが、それでも、ドライブにでも行ってみたい・・・と思える季節ですね。

梅雨までの、少しのさわやかな季節を俳句に切り取ってみませんか。

今回もうさおさん、健さんの句を拝見しましょう。まず、うさおさんの句です。

押し掛かる桑刈り込みて夏を知る

桑の葉を刈る事で夏が来たと気づかされたのですね。桑↓春の季語です。

夏と春の季重なりは避けましょう。桑でも夏桑とすれば夏の季語で通ります。

*夏桑の押し掛かる葉を刈り込みぬ

手に染まる桑の葉のする柏餅

桑の葉の匂いや色が手に染まっているのでしょうか?こちらも季重なりです。

少し意味合いが変わるかもわかりませんが、

*葉の匂ひ染まる指先柏餅

青空に寂しき数の鯉幟

鯉幟の数も少子化からか、年々減っているようですね。

*空真青数も淋しき鯉幟



鯉幟泳ぎ疲れて目刺かな

面白いですね。でも、歳時記をみていただくとわかりますが、目刺も季語（春）なのです。季重なりはいけないのですが、独創性があります。

*目刺めく泳ぎ疲れし鯉幟 うくん、少し違うかな。

訪ねれば異動の多き皐月かな

良いですね。五月は異動の月ですね。最後のくかなの切れ字で作者の淋しい気持ちもあらわれています。

続いて健さんの句です。

花冷えや無職と記す職業欄

退職を決められたとか・ご病気の事を思えば、それも一つの選択です。しっかり治療に専念なさって下さいね。季語に気持ちがつまっていますね。

ゴールデンウィークを過ぎ、新型インフルエンザが猛威をふるっています。

良い季節だけに、残念ですが、自分の身は自分で守らなければなりません。充分お気をつけください。

ファイндラーの四角き五月切り取りぬ

トルソーの軽き装ひ五月かな

ゆうこ

